古文 練習問題 ⑥『玉勝間』

次の『玉勝間（たまかつま）』の一節を読んで、あとの問いに答えなさい。

桜の花のざかりに、歌よむ友だち、これかれかい連ねて、そこかしこと、見ありきける。かへるさに、見し花どものこと、語りつつ来るに、ひとりが(a)いふよう。まろは、歌よまむと、思ひめぐらしけるほどに、(b)けふの花は、いかにありけむ、こまやかにも見ずなりぬといへるは、をこがましきやうなれど、まことはたれもさもあることと、をかしくぞ聞きし。

*をこがましき　いかにもばかばかしいこと。

一、(a)～(b)を現代かなづかいになおしなさい。

(a)（　　）　(b)（　　）

二、本文中には会話が一つある。その初めと終わりの五字を書き抜きなさい。なお、句読点も一字として数える。

初め（　　）終わり（　　）

三、『玉勝間（たまかつま）』は本居宣長が書いた随筆です。本居宣長はいつの時代のひとか、次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア　平安時代　イ　鎌倉時代　ウ　江戸時代　エ　明治時代

答え

一、(a)いうよう　(b)きょう

二、初め　まろは、歌　終わり　見ずなりぬ

三、ウ

解説

会話文の見つけ方

①「言ふ」「申す」「問ふ」などの動詞を見つける。

②引用を示す助詞「と」「とて」を見つける。